

# Asia Indicators

発表日: 2020年5月15日(金)

豪州、韓国で雇用への急激な調整圧力が顕在化 (Asia Weekly(5/8~5/15))

~インドでは都市封鎖の影響で生産に急ブレーキの一方、データが集まらずインフレ率は公表出来ず~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/8(金)	(台湾)4月輸出(前年比)	▲1.3%	--	▲0.6%
	4月輸入(前年比)	+0.5%	--	+0.5%
5/12(火)	(中国)4月消費者物価(前年比)	+3.3%	+3.7%	+4.3%
	4月生産者物価(前年比)	▲3.1%	▲2.6%	▲1.5%
	(インド)3月鉱工業生産(前年比)	▲16.7%	--	+4.6%
	4月生産者物価(前年比)	公表中止	--	+5.84%
5/13(水)	(韓国)4月失業率(季調済)	3.8%	--	3.8%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	0.25%	0.25%	0.25%
	(マレーシア)1-3月実質GDP(前年比)	+0.9%	▲1.5%	+3.6%
5/14(木)	(豪州)4月失業率(季調済)	6.2%	8.3%	5.2%
5/15(金)	(中国)4月鉱工業生産(前年比)	+3.9%	+1.5%	▲1.1%
	4月小売売上高(前年比)	▲7.5%	▲7.0%	▲15.8%
	1-4月固定資産投資(前年比)	▲10.3%	▲10.0%	▲16.1%
	(インドネシア)4月輸出(前年比)	▲7.02%	--	▲0.38%
	4月輸入(前年比)	▲18.58%	--	▲0.74%

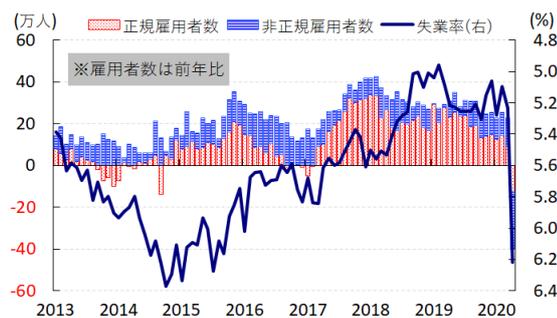
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [豪州]~雇用者数の減少幅、失業者数の拡大幅は過去最大も、労働市場からの退出で失業率は小幅悪化~

14日に発表された4月の失業率(季調済)は6.2%となり、前月(5.2%)から1.0pt悪化して2016年1月以来4年強ぶりに6%を上回る水準となった。失業者数は前月比+10.4万人と前月(同+2.0万人)から2ヶ月連続で拡大しており、月次の拡大幅として過去最大となったほか、中期的な基調も拡大を強めている。雇用形態別では、非正規雇用に対する求職者数(前月比▲1.1万人)で減少する一方、正規雇用に対する求職者(同+11.5万人)の拡大が全体を押し上げた。一方、雇用者数は前月比▲59.4万人と減少幅は過去最大となったほか、中期的な基調も一転して減少傾向に転じるなど急速に下押し圧力が掛かった。雇用形態別でも正規雇用者(前月比▲22.1万人)のみならず、非正規雇用者(同▲37.4万人)もともに減少傾向をつよめるなど、全体的に雇用調整圧力が強まっている様子が見えてくる。地域別でも、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州などで大きく減少するなど、大都

市部で雇用環境が急激に悪化しているほか、それ以外の州でも軒並み減少するなど全般的に悪化している。なお、失業者は大幅な拡大にも拘らず失業率の悪化が比較的小幅に留まった背景には、労働力人口が前月比▲49.0万人と大きく減少しており、それに伴い労働参加率が63.5%と前月(66.0%)から▲2.5ptと大きく低下したことが影響している。これは新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大に伴う外出制限措置を受けて、折からの景気減速の動きも相俟って労働市場からの退出の動きが強まったことが影響したと考えられる。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

#### [韓国]～失業率は横這いで推移も雇用者数は2ヶ月で100万人超減少、労働市場からの退出の動きが進む～

13日に発表された4月の失業率(季調済)は3.8%となり、前月(3.8%)から横這いで推移している。失業者数は前月比▲0.3万人と前月(同+12.7万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少に転じるなど頭打ちの兆候がみられる。年代別では、10代及び20代といった若年層で減少する動きがみられる一方、30代や40代などの働き盛り世代や50代以上の高齢層で拡大しており、これまで比較的堅調な推移をみせてきた高齢層で悪化している様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比▲33.8万人と前月(同▲68.0万人)から2ヶ月連続で大幅に減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど急速に下押し圧力が掛かっている。年代別ではすべての年代で雇用者数が減少している上、雇用形態別でも正規雇用、非正規雇用問わずに減少圧力が強まっており、全般的に雇用環境が悪化している。こうした状況にも拘らず失業率が横這いで推移している背景には、労働力人口が前月比▲3.4万人と3ヶ月連続で減少している背後で非労働力人口が同+35.3万人と3ヶ月連続で大幅に拡大しており、それに伴い労働参加率が61.6%と前月(62.4%)から▲0.8ptと大幅に低下するなど、労働市場からの退出の動きが加速していることが影響している。なお、若年層の失業率は8.2%と前月(8.5%)から▲0.3pt低下しているものの、雇用者数は前月比▲24.5万人と前月(同▲22.9万人)から3ヶ月連続で減少する一方、労働参加率は44.8%から前月(45.5%)から▲0.7pt低下しており、労働市場からの退出の動きが失業率の改善に繋がるなど実態と乖離している可能性は高まっている。

図2 KR 雇用環境の推移

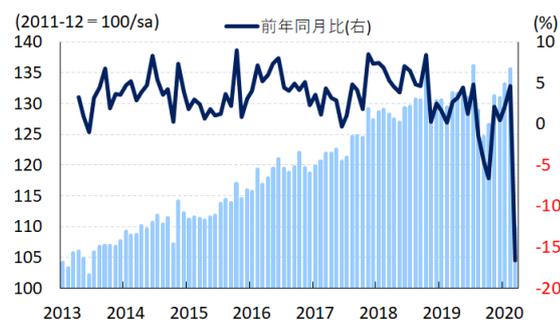


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インド]～外需の鈍化に加え、外出禁止令に伴う操業停止も重なり、3月の鉱工業生産に急ブレーキが掛かる～

12日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比▲16.7%となり、前月(同+4.6%)から5ヶ月ぶりに前年を下回る伸びとなった。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど急速に頭打ちしている。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のパンデミック(世界的大流行)による世界経済の減速懸念を受けた外需への下押し圧力に加え、同国でも感染拡大の動きが広がりを見せており、3月末以降全土を対象とする外出禁止令の発動に動いたことも生産活動の重石になったとみられる。分野別では、国際商品市況の低迷を受けて比較的堅調な動きが続いた鉱業部門の生産に一転下押し圧力が掛かったほか、工場の操業停止を受けて製造業の生産にも大きく下押し圧力が掛かった。家計消費など内需の弱さを反映して消費財の生産が大きく鈍化したほか、生産低迷を受けて資本財や中間財の生産にも軒並み下押し圧力が掛かり、例年は年度末にかけてインフラなど公共投資が活発化するにも拘らず、外出禁止令を受けて建設が停止したことでインフラ関連の生産も低迷するなど、すべての分野で生産が弱含んだ。

図3 IN 鉱工業生産の推移



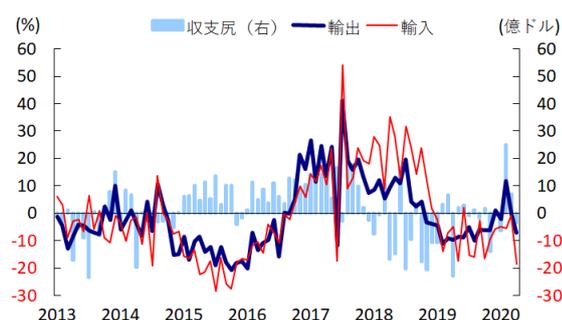
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インドネシア]～内・外需双方の低迷を反映して輸出・入ともに大きく下振れ、貿易収支は再び赤字に転じる～

15日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲18.58%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲0.38%)からマイナス幅も拡大した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど一段と頭打ちしている。財別では、国際原油市況の大幅調整を反映して石油製品関連や天然ガス関連の輸出に大きく下押し圧力が掛かったほか、農産品や製造業関連の輸出にも軒並み下押し圧力が掛かっている。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)

の世界的大流行を受けた世界経済の減速懸念の高まりに加え、同国内での感染拡大に伴う都市封鎖措置による経済活動の停滞も輸出の足かせになっている。一方の輸入額は前年同月比▲18.58%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲0.74%）からマイナス幅も拡大した。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向を強めるなど輸出同様に頭打ちしている。国際原油市況の大幅調整の動きが原油や石油製品、天然ガス関連の輸入額の重石となっているほか、足下で景気の減速感が強まっていることを反映して輸入全般で下押し圧力が強まっている。結果、貿易収支は▲3.45億ドルと前月（+7.16億ドル）から3ヶ月ぶりの赤字に転じている。

図4 ID 貿易動向の推移

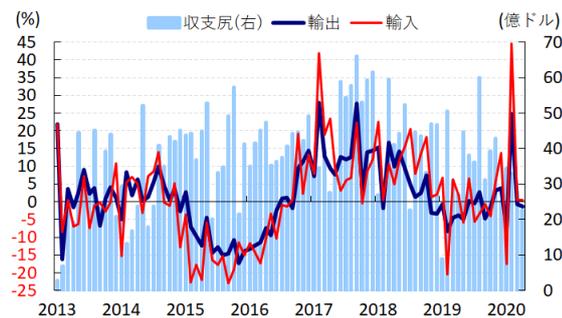


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

#### [台湾]~新型コロナウイルスの世界的大流行に伴う輸出の先行き不透明感の高まりを受け、輸出入双方に頭打ちの動き~

8日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲1.3%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びに留まり、前月（同▲0.6%）からマイナス幅も拡大した。前月比も▲4.4%と前月（同+1.9%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が頭打ちしているほか、先行きの輸出に一段と下押し圧力が掛かることを警戒して素材及び部材関連の輸出が大きく鈍化するなど、幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けが頭打ちしているほか、日本や米国、EUなど先進国向けのみならず、アジア新興国向けも総じて鈍化しており、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の世界的大流行による世界経済の減速懸念を反映したものと捉えられる。一方の輸入額は前年同月比+0.5%となり、前月（同+0.5%）と同じ伸びに留まるも辛うじて前年を上回る伸びで推移している。ただし、前月比は▲1.5%と前月（同+1.4%）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの兆候がうかがえる。国際原油市況の低迷を受けて中東からの輸入に軒並み下押し圧力が掛かっているほか、新型コロナウイルスの世界的大流行に伴う輸出低迷を警戒して素材及び部材関連の輸入も鈍化しており、輸出を巡る不透明感が輸入の重石になっている。結果、貿易収支は+22.67億ドルと前月（+27.82億ドル）から黒字幅が縮小している。

図5 TW 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。